

播種～苗立ちまでのポイント（コシヒカリを中心に）

- ① 播種深度は5～10mmとし、60本/m²（18本/m）程度の適正苗立本数の確保
- ② 土壌条件に応じた基肥基準量の厳守（移植栽培より1割程度減肥）
- ③ ほ場条件、播種様式に応じた的確な田干しの実施（苗立ちの安定化）

ほ場の準備

（1）耕起～代かき

- ほ場の均平が悪いと播種ムラや出芽ムラが発生しやすくなります。代かき時にねり過ぎ無いよう、耕起から砕土・整地の作業は移植より丁寧に行いましょう。
- 代かきは、稲株や雑草等をすき込むことを目途に、少なめの水で行いましょう。
- 代かきから播種までの日数は、砂壤土1～2日、壤土2～3日を目安にしましょう。

（2）基肥の施用（コシヒカリ）

- 基肥は、窒素成分で移植栽培の1割程度の減肥を目安に施用しましょう（表1）。
- ※大豆跡田では倒伏の危険性が高いことから、できるだけ分施肥体系で栽培しましょう。
- ※「直播てんこもり」の場合、分施での基肥量は直播コシヒカリより窒素成分で1kg程度増量してください。

表1 施肥基準（直播コシヒカリ）

土質	LPss直播コシヒカリ (直播用基肥一発)		分施 (側条施肥)
	施用量 (kg/10a)	N成分 (kg/10a)	N成分 (kg/10a)
砂質浅耕土	34	7.0程度	3.5
砂壤土	31	6.5程度	3.0
壤土	28	6.0程度	2.5

播種

- 播種の適期は、4月25日～5月10日頃です。
- 目安を参考に、適正播種に心がけましょう（表2）。
- 播種前の落水は、播種作業が午前中の場合には前日の夕方に、午後の場合には当日の早朝を目安とし、土壌条件や気象条件に応じて行いましょう。

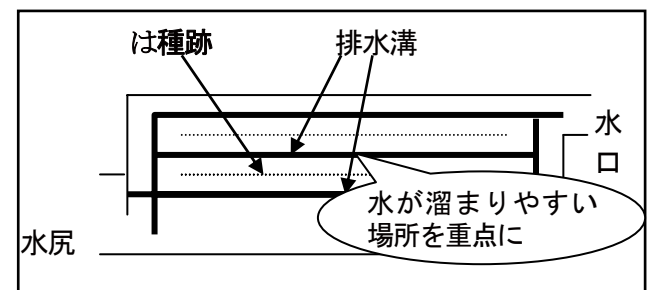
表2 播種作業の目安

播種量		播種深度 (地表面から)
乾粒重量	落下粒数	
2.5～3.0kg/10a	28～33粒/m	5～10mm

播種後の水管理

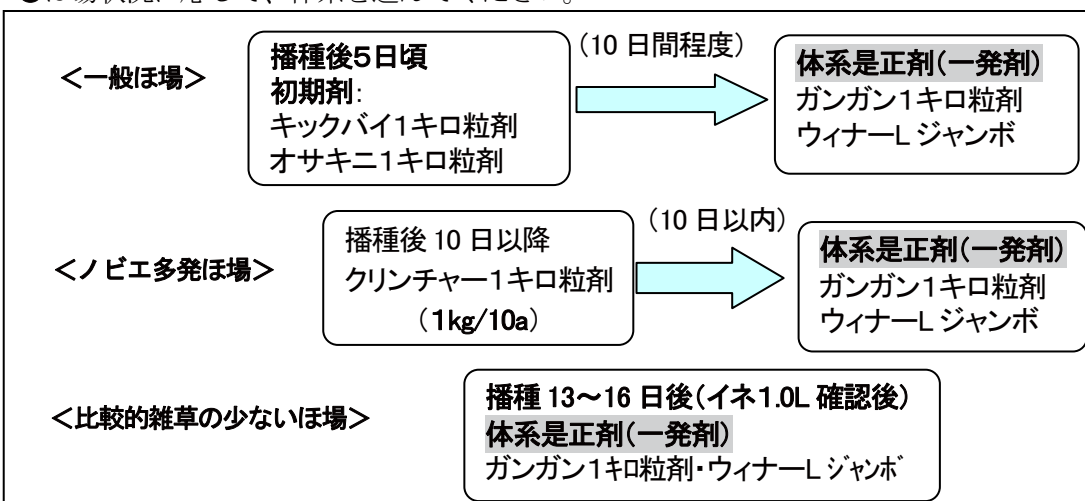
- 播種後の田干しを効果的に行うため、播種同時作溝や、播種後に排水溝を掘るなど、迅速な表面排水に努めましょう（図1参照）。
- ほ場の透水性に応じ、土壌表面に亀裂が入り渡るまで5日程度の田干しを行いましょう。ただし、極端な乾きすぎに注意しましょう。

図1 排水溝の設置方法



除草剤の散布

- ほ場状況に応じて、体系を選んでください。



<使用上の注意>

- ・散布後は田面が露出しないように湛水しておきましょう。
- ・散布後5～7日間は止水管理し、水田外へ流れ出さないようにしましょう。
- ・除草剤は登録農薬を使用し、安全使用基準をしっかりと守りましょう。

鳥害対策

播種深度が浅く、種粒が露出すると、カラスやスズメの食害が発生するので、注意してください。

- カモ：ほ場内に糸やテープ等を張り侵入を防ぎ、カモが侵入した場合は、直ちに落水し被害を最小限に抑えてください。
- スズメ：播種後、種粒が露出して見える場合は一度入水し覆土する。スズメが侵入した場合は、速やかに入水してください。
- カラス：カラスの飛来が懸念されるほ場では、播種後、ほ場内や周辺に水糸を張り、飛来防止に努めてください。

次号（播種後の本田管理、除草剤等）は、5月下旬の発行を予定しています。